



江原先生に学ぶ 校長 根岸隆尾



昨今、中学生・高校生の犯す凶悪な犯罪が、連鎖反応のように起り、大きく取沙汰されています。彼らと同じ世代の教育に携わっている私共は、自らの存在が問われているような衝撃と苦しさを感じます。ともすれば、教育の方途を見失いがちであります。こうした衝撃的な事件が起きる度に、中高生一般に対する大人たちの目は、ある寛容さを失い、ますます厳しいものとなっていきましよう。

しかし、私は今、江原先生の教育姿勢に関するこんなエピソードを思い浮かべています。江原先生に直接教えを受け、更に母校麻布中学の教員となり、先生のもとで

生徒を教えた国文学者、随筆家の岩本素白は、こう語っています。「教師としての私共が或る悪い学生に愛想をつかして『先生あれはとも見込みがありません』と訴える。先生は、『イヤ最う少し面倒を見てやれ』と云われる。『先生あの生徒の顔を御覧なさい、顔に不悔俊の情が現れてをります』と云うと、『イヤ顔はどうでも、最う少しの間面倒を見てやって呉れ、精神が癒えれば顔もよくなる』と云われた。私は妙な事を先生は云う、精神が矯正されたとしても顔の癖悪そうな相ままで癒せはせまいと疑ったものである。夫れが程経て其の生徒が行いを改めて精神が善良になったら、成程顔までやさしく見えて来たので、私は驚くと共に慚愧して先生の徳に感激した。」と述べています。

不断に寛容の精神を持って生徒に接し、その未来を信じて暖かく見守り続ける江原先生のご人格、その教育姿勢こそ、私共が学び、

広 報 誌
第 3 号
2000 年 10 月 14 日
発 行 学 園
麻 布 106-0046
〒 東 京 都 港 区
元 麻 布 2-3-29
Tel03-3446-6541
fax03-3444-2337

身につけねばならぬ根本的な精神でありましよう。

このような教育姿勢・精神をもつて、先生が保護者と生徒に強く求めたもの、それは、生徒が自らの力で事を行う「自治の精神」でありました。麻布中学校が現在の地に移り、新校舎が落成した明治三四年頃に保護者に宛てた文書

「保証人に注意すべき条項」の中に、服装や携帯品、例えば、一、小刀を携帯して登校せしめざるこ

と」などの諸注意の最後に、「二、独立自治の精神を養うことに注意ありたきこと」という一項目がありました。先生は、教育制度や法律が、例え完全であったとしても、

青少年に「自治の念」が欠ければ、我が国は興隆しないという信念のもとに、何事も成るべく他人にや

りませう。江原先生、今日教育界はさまざまな問題をほらみ、教育改革という言葉が声高に叫ばれています。しかし、そうした言葉に踊らされることなく、変化を求めつつも先生が体現された不易の精神を一筋の光として今後も精進していきたいと思つています。(二〇〇〇年五月一九日、江原素六先生記念祭、式辞。沼津にて)

この四月から、全学年各七学級体制で授業を実施している。長年の懸案であった学級定数減を、一学級五〇人から四二、三人へと少人数化する方向で検討し、従来の六学級制を改め、七学級制を実現した。かつては一学級六、七〇名の時代もあったという(OB談)。

主に教員室棟の三、四階を改修し、採光のとれた六教室を増設した。さらに、特別教室、数学教室

昨年八月一五日、高校二年の田中宏和君が水泳中亡くなられました。ご両親は、学園に多大なご寄付をお寄せくださいました。学園は、そのご寄付を学園の奨学金に組み入れてさせていただきます。

また、同じく高校二年の富久信介君は、今春三月八日に起きた、地下鉄日比谷線の脱線衝突事故の犠牲となりました

つて買って自分は楽をしようとする傾向」を強く戒められたのでありましよう。

江原先生、今日教育界はさまざまな問題をほらみ、教育改革という言葉が声高に叫ばれています。しかし、そうした言葉に踊らされることなく、変化を求めつつも先生が体現された不易の精神を一筋の光として今後も精進していきたいと思つています。(二〇〇〇年五月一九日、江原素六先生記念祭、式辞。沼津にて)

この四月から、全学年各七学級体制で授業を実施している。長年の懸案であった学級定数減を、一学級五〇人から四二、三人へと少人数化する方向で検討し、従来の六学級制を改め、七学級制を実現した。かつては一学級六、七〇名の時代もあったという(OB談)。

主に教員室棟の三、四階を改修し、採光のとれた六教室を増設した。さらに、特別教室、数学教室

昨年八月一五日、高校二年の田中宏和君が水泳中亡くなられました。ご両親は、学園に多大なご寄付をお寄せくださいました。学園は、そのご寄付を学園の奨学金に組み入れてさせていただきます。

また、同じく高校二年の富久信介君は、今春三月八日に起きた、地下鉄日比谷線の脱線衝突事故の犠牲となりました

富久君は、中学・高校を通して、サッカー、更にラグビーに打ち込み、その部員として活躍していました。

富久信介
スポーツ奨学金

ご両親は、学園と、この二つのクラブに多大なご寄付をお寄せくださいました。学園は、ご両親の「

信介君の遺志を生かすために、戴いたご寄付を次のようにすることに決めました。「学園への寄付を、学園の奨学金に組み込み、奨学金貸与を認められた生徒の中から、特にスポーツに関心をもち活動している生徒一名を選び、『富久信介スポーツ奨学金』として貸与する。」

有難うございました。(根岸)

などを新設した。定数減が、教員にも生徒にも良いかたちで反映されることを願っている

麻布学園ホームページ公開
<http://www.azabu-jh.ed.jp>
昨年五月、学園のホームページを公開した。「ホームページ委員会」を教員の中で組織し、入念な討議を繰り返し、公開するに至った。最新情報。「What's New」を始めとして、学園案内、行事案内、クラブ紹介、麻布の近況から入試要項まで、多彩なインフォメーション・サービスをを行っている。さらに、「麻布文庫」や、生徒達の研究論文等を掲載した「論集」の紹介など、現在の麻布学園についてのほぼ全貌を備蹴することができ、この十月までに、五万数千件のアクセスがあった。今後も大いに利用していただきたい。(廣瀬)